

オープニングトーク「うき 戦争の記憶 ～宇城 戦争の傷跡と戦禍の記憶～」

一社 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生

1 はじめに

- 戦後世代としての「私の視点」
～近現代考古学との出会い、平和活動へ～
- 熊本県内の「戦争の記録」を『くまもとの戦争遺産』
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、
空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長
- 平和憲法を活かす熊本県民の会、一社 くまもと戦争と
平和のミュージアム設立準備会
- 2024年「福岡県戦時資料展」巡回展を先行事例として



宇城市の戦争遺跡「永代橋梁」

2 三角の戦争遺跡を知る！！

(1) 陸軍船舶砲隊とは

- 陸軍船舶部隊「砲隊」。本部隊は、陸軍が国外で軍事
作戦を行う上で必要とする兵員、兵器、弾薬、食糧など
必要な軍需物資等を海上輸送する部隊。
- 昭和19年10月から海上輸送や軍需物資の管理等をつかさどる「第十五船舶団」司令部が際
崎の蚕糸館跡に本部を設置
- 。陸軍予備役の林少佐
- 遠洋漁業用100トンの徴用漁船が中心で、物資運搬ダンベ船も配置。三角町周辺には陸軍関
係の多くの物資が集積。第十五船舶団では、天草配備の独立混成二百十六旅団への物資補
給。長崎県南島原市口之津港に派遣された陸軍マルユ艇部隊である第二潜航輸送隊による
南西諸島への物資補給
- 「マルユ 十二号艇」三角港での銃撃記録

(2) 戸馳島野崎の弾薬格納壕

- 三角港を対岸とする野崎の旧製氷工場裏手
- 陸軍弾薬壕の入口は2箇所、その間隔は25.1m。1号入口前には爆風除けのコンクリ
ート壁（高170cm、横残存200cm、厚30cm）が建った状態で現存し、2号入口前にも同様のコ
ンクリート爆風除け障壁が前面に倒れ込む。さらにコンクリート壁前には切石で二段の石
垣を組み丁寧に入口を造作している様子が見える。
- 内部平面は井桁状で、二本の縦坑に対し横方向に四本の格納・通路壕が連結しており、奥
行き30.6mを測る。格納壕は断面蒲鉾形で横2.3m、高さ2.5m、通路部は同形で横1.4m、高
さ1.5mの規模である。本壕には証言では弾薬はまだ格納されておらず、第2入口側の先端
掘削中で敗戦をむかえた。



左：本部舎と「砲第四二三六五部隊本部」看板 中：格納壕入口前に設置された爆風よけのコン
クリート壁 右：戸馳島野崎の弾薬格納壕格納横穴壕の様子

(3) 三角町涼松の兵員壕

- 三角町涼松丘陵東側に4箇所、西側に3箇所の入口が現在も開口する兵員壕
- 陸軍が地元の青年学校・国民学校高等科の生徒等も徴用しながら掘削したもので、内部は
蒲鉾形の素ぼりで横幅3.0m、高さ2.8mを測る。これらの壕内部は、迷路状に通路及び兵員
待機室が配されている
- 新地前越地区にも爆風除けのL型土塁を有する格納壕3基が良好な状態で現存

(4) 三角町黒崎の補給品格納壕

- 黒崎地区国道添い「みなと醤油醸造元」本社前の補給品格納壕
- 戦後暫くまでは、入口に木製の大型両開き扉が設置されていたが、今は方形断面の痕跡を残すのみ。入口は2箇所設けられ、最深部でコ字型で連結している。入口部は断面矩形で横3.0m、高さ2.5m、内部は断面蒲鉾型で横2.6m、高さ2.8mを測る。奥行き約40mで横方向に約32m延びる。収容されていた補給品は、軍隊被服、食糧の乾パンや牛缶、砂糖等である。



左：涼松の兵員壕内部 中：黒崎の補給品壕の入口。方形扉部の構造 右：内部の様子

3 地方のまち「松橋空襲」の実相！！

(1) 「松橋空襲とは」何か ※啓発リーフ『M76焼夷弾と熊本空襲』『空襲下の熊本』

- 熊本での「地方のまちへの空襲」を改めて「見つめ直す」
- 「川尻・緑川空襲と宇土空襲」を含め、鉄道等「インフラ攻撃」のわかりやすい姿

(2) 戦争遺跡・鉄道遺産「永代橋梁（きょうりょう・鉄橋）」



左：松橋駅の惨劇 昭和20年7月27日の空襲様子
夏目信弘氏著『記憶のなかの色紙』より
右：第1番橋脚西面の機銃弾・弾痕状況

- 下部構造（躯体）は、橋脚2基・橋台2基で構成
- 上部構造は、桁連数三連の「三径間単純鉸桁（ガーダー）橋」、橋長40.74mを計測
- 九州鉄道時代の貴重な鉄道・近代化遺産であり、全体構造等の継続調査が必要
- 橋梁第一橋脚への「爆弾痕跡と機銃弾跡」の調査・測量、文化財として残し、活用する！

(3) 紙の爆弾「伝単（でんたん）」～戦場及び占領地、敵国（内地・銃後）の「情報戦」～

- 昭和20年8月、熊本市・松橋・天草・菊池・玉名「伝単五種」を投下 約50万枚
- 日本国民に告ぐ伝単、無条件降伏の意義伝単、ポツダム宣言伝単、トルーマン伝単 他
- 昭和二十年八月十二日熊本市日日新聞に「熊本市に紙の爆弾 伝単の内容を喋れば厳罰敵の思想謀略」記事が掲載され、熊本市内での伝単投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」と報じている。
- 川尻・宇土・松橋にもB25機により、昭和20年8月9日「無条件降伏の意義：137-J-1」伝単が30,000枚、「ポツダム宣言：152-J-1」伝単が75,000枚、「計10万枚」投下された。

熊本で実際に投下された「伝単 二種」両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」
上段「無条件降伏の意義：137-J-1」伝単
下段「ポツダム宣言：152-J-1」伝単
熊日新聞社新聞博物館所蔵



(4) 墜落したB25と5名の搭乗員

- 墜落機体 North American 「B-25」 Mitchells (ミッチェル) J型機
- 第5爆撃機集団 第345爆撃機群団 第498戦隊所属機：沖縄伊江島基地
- 機体型番：4-31300 機体に通称は「エアバッチ」
- 墜落日：1945 (昭和20) 年 8月7日
- 墜落地：旧鏡村「氷川河口・氷川中洲・左岸より」 ※芝口集落下流地先・三番割
- 墜落機搭乗員
 - 主パイロット Robert G. Neal大尉 NY Buffalo出身 (後列左 ロバート・ニール)
 - サブパイロット Louis J. Winiecki, Jr大尉 NY Lancaster出身 (後列右 ルイス・ウィニッキ)
 - 航法士 Richard S. Lane 大尉 NJ Ridgewood出身 (前列左 リチャード・レーン)
 - 機関士 Robert W. Goulet 軍曹 NY出身 (前列中 ロバート・グワレット)
 - 通信士 William Cohen軍曹 NY New York出身 (前列右 ウィリアム・コーエン)



右：1945年8月7日、
氷川に墜落したB25
機の機長・搭乗員
古牧昭三氏提供
左：沖縄伊江島基地か
ら離陸するB25機
工藤洋三氏提供

(5) 「今だから話せる」「もう話してもよからう」という戦争証言

- 古賀昭代さん (85歳・当時国民学校4年生) の証言
「若い米兵達は、後ろ手に縛られ引っ張られていた」「国防婦人会の約20人が、もんぺに鉢巻きを締め、薙刀を持つ姿に圧倒された」
- 塚本 太さん (82歳・当時国民学校2年生) の証言
「米兵と対峙した父」「墜落時の米兵と住民」「芝口集落を歩く、5人の米兵・荷だを目撃」

(6) 西部軍第三事件、「敵機捕獲搭乗員」処刑

- 内地での捕虜飛行士は、「一般捕虜」ではなく、戦犯容疑「敵機捕獲搭乗員」
- 総数568人で、無事本国への生還者は303人
- 捕虜は熊本憲兵隊本部で取り調べを受けたのち、福岡西部軍司令部へ列車で連行される。
- 途中、荒木・筑紫駅付近で米軍機による銃撃「西鉄筑紫野駅銃撃事件」(1945年8月8日11時30分)を受け、連行中の憲兵1名が死亡する。幽閉されたのち15日に油山で処刑された。
- 1945年5月頃以降に西部軍司令部に収容された飛行士40~41人は、「日本人市民に対する無差別爆撃の罪」の理由で6月20日(第一事件)、8月10日(第二事件)、8月15日(第三事件)に3回にわたって処刑された。これらの事件を通称「西部軍事件」という。
- 搭乗員斬首事件裁判 (GHQ報告書第420号 再審記録第288号)

4 戦後と接収！！

(1) 墓石への改ざん、敗戦後の混乱

- 岡岳公園に残された14基の墓所。戦死の「戦」、「支那」文字等の削除。直後の「デマ」
- 全国各地にも同様事例あり。天草市鈴木神社の奉納狛犬台座「必勝」等文字へのモルタル埋め込み事例、天草地区軍人像銘板除去 他

(2) 三角港での爆弾等の海上遺棄

- 敗戦後、進駐軍による旧軍武器・弾薬の海上投棄・遺棄
- 米軍進駐軍指示による「三角町警防団員」等による作業。地元証言の収集が必要では
- 1946 (昭和21) 年1月「HITOYO SI」と誤記載。「MISUMI」銘は



5 まとめ

戦後79年 平和を紡ぎ、「平和のバトンを次代につなぐ！！」

『松橋空襲 ～昭和二十年空襲と墜落米軍機～ (仮)』作成へ



連絡先
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表、一社 くまもと戦争
と平和のミュージアム設立準備会幹事 高谷 和生
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/